情報ボックス

Ｎｏ．１８

大阪府立西淀川支援学校 進路支援部

本年度の情報ボックスのテーマは「リハビリについて」です。
年間３回の発行を通して、各種リハビリの概要等についてお伝えしていきます。
（今回は最終回）

○ 肢体不自由児が受けるリハビリテーションの主なものには、

- **ＰＴ（physical therapy）　：　理学療法**
- **ＯＴ（occupational therapy）　：　作業療法**
- **ＳＴ（speech and language　therapy）　：　言語聴覚療法**

の３つが挙げられます。本校にも訓練機関で、上記のリハビリを受けている児童・生徒がたくさんいます。

上記の訓練スタッフ（セラピスト）のことを、それぞれ「理学療法士」「作業療法士」「言語聴覚士」といい、肢体不自由教育においては、これらの専門職の方と連携をとることも大切になります。

今回はこの中から、**ＳＴ（言語聴覚士）**についてと、教員のリハビリ見学についてお伝えします。

◎ＳＴとは

言語聴覚士は、主に言語障がい・音声障がい・嚥下障がいに対しての専門家です。音声機能、言語機能又は聴覚に障害のある人についてその機能の維持向上を図るため、言語訓練その他の訓練、これに必要な検査及び助言、その他の援助を行うことを業する人です。

今回は、西淀川支援学校に来られているＳＴの先生にお話を伺うことができました。

西淀川支援学校に来られて、４年ほどになりますが、主にＳＴという観点から**コミュニケーション**、**摂食指導**についてのアドバイスをいただいています。

コミュニケーション

本校に来られた当初は iPad が導入された時期で、先生方からは、iPad の使い方についての質問が多くありました。現在は活用の広がりをみせ、様々なアプリの紹介やそのアプリを使ってどのように授業をするかなど教育活動の中で iPad の使用が広く展開されてきています。

コミュニケーションのなかには、言語と非言語手段に大きくは分かれますが、非言語手段の中には、**表情**、**発声**、**指差し**、**ジェスチャー**、**緊張**など様々な伝達手段があります。

子ども主体の場面設定をつくって引きだせるよう様々な※**コミュニケーション・エイド**は西淀川支援学校にもたくさんあります。　ぜひｉＰａｄにスイッチなどをつなげてみて、色々なコミュニケーションを広げてみましょう。

※ 言語障がい、視覚障がい、聴覚障がいを持っている人や重度身体障がい者が社会参加に必要なコミュニ

ケーション（意思の伝達）がとれるように、電話に文字変換装置、パソコン通信などに音声変換装置、椅子に文字盤をつけるなど機能補助をした福祉機器を指します。

たべること

先生からは、給食での摂食指導の質問が多く、介助方法や姿勢について、また最近では、**とろみの度合い**についての質問がよく聞かれます。なかなか初見で決めるのは、難しいので、様子を見ながら、少しずつ試してみることが大切です。

こういった様々なアプローチのなかで子どもさんたちのＱＯＬ（Ｑｕａｌｉｔｙ　Ｏｆ　Ｌｉｆｅ）を高めていきたいと考えています。　　生活の質

色々教えて下さってありがとうございます！

〇本校で使われているコミュニケーション・エイドの例

《視線入力式　意思伝達装置　　マイトビー》
目（視線）を使って文字を書いて読み上げさせたり、
Ｅメールを送ったりできる視線入力による意思伝達装置です。

子どもの実態や、目的に合わせて行われているリハビリはさまざまです。
学校生活や、自立活動の指導の中で困ったことがあれば、保護者の方や訓練機関の了承を得て、リハビリ見学に行くこともあります。

〇 リハビリを見学する際のポイントと注意事項

１、日常の教育活動で困っていることを挙げ、見学に行きましょう。
例：勉強・食事の時、手指の拘縮に応じた自助具の作り方やポイント
　　発語が困難な為、ICT 機器等を使ったコミュニケーション手段や方法
２、リハビリの課題・ねらい・準備・内容を把握しましょう。

３、できるだけセラピストと会話をして、情報を得ましょう。
→ そのために、事前に質問事項を挙げておくことが重要です。
セラピストや保護者に了承を得られたら、写真や動画で記録をとることも有効です。

学校の中で共通の記録用紙を作るなどして、見学した内容を教員間で共有することも大切になります。学校生活の中で安全に取り入れられる内容を選択し、教育活動に取り入れていきましょう！